



# 大館にも 断層は存在しています

地球内部のプレートの運動に伴って、二つのプレートの境界付近やプレートの内部では、弾性的変形が進んでいきます。それが変形の限界を超えたとき、境界面あるいはプレート内部の断層が、ひすみを解消する方向に突然ずれ動きます。これが地震となるのです。

図中 — 線部 実在する断層  
 - - - 線部 推定される断層

## スーパーやデパートで

- ★ ショーケースや棚などから離れましょう。手近に買い物カゴがあれば、それで頭を保護しながら大きな柱や壁際に身を寄せて揺れが収まるのを待ちます。
- ★ 階段やエスカレーターに殺到するとけがをしますから、落ち着いて従業員や店内放送の指示に従います。

## 自動車運転中に

- ★ 運転中に大きな揺れが来た場合は、急ブレーキを踏んではいけません。車がスピンしたり横転

# 自分たちの身は自分たちで守る



- ★ 避難する場合は、車を左側に寄せてキーをつけたまま、貴重品だけを持って逃げます。
- ★ カラジオをつけて地震情報を聞きます。
- ★ 避難する場合は、車を左側に寄せてキーをつけたまま、貴重品だけを持って逃げます。

よく「大地震のとき、どうしたらいいですか」ということが言われますが、「はい、これをやれば大丈夫です」という絶対的なものはありません。肝心なのは「自分たちの身は自分たちで守る」という、ごく当たり前のことを再確認することです。事が起きてからそれに気付いたのでは遅いのです。

阪神・淡路大震災の際、「救助隊が来るのが遅い」という非難が聞かれました。確かにそのとおりだったかも知れませんが、防災体制を整えるのは行政の責任による部分も大きいといえます。しかし、

えているわけにもいきませんし、今回のようなパニック的状况下では、行政がきめ細かい対応をとれるという保証も失われがちです。

阪神・淡路大震災を契機に、皆さんの防災意識が高まったことは確かでしょう。しかし、「のどもと過ぎれば」というのであれば、いざというときに生き残れません。大切なのは日常の心構えです。だれも地震の発生を予告してはくれません。突然グラッと来て、アツという間にかたがついてしまう、それが地震なのです。結局、「自分たちの身は自分たちで守る」しかないのです。